

教育方法論（幼稚園）

科目のねらい

本科目は、保育者に求められる専門的知識と技術を身に付け（DP1）、保育実践において、保育に必要なコミュニケーション力を身に付け（DP3）、保育者として多様な人々と協働する必要性を理解し（DP4）、子どもの最善の利益を考え続ける姿勢を持つための（DP5）科目である。

担当教員	堺 秋彦 他
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

教育の目的、幼児教育の基本を踏まえ、教師の役割の理解を深め、保育（教育）知識・技術の活用の意義や方法を考え、技能として展開できるようにする。その上で、保育指導案を作成し、幼児に対し保育を実践し、実践後省察をする。さらに、情報機器を活用して効果的に教材等を作成する。

到達目標

（1）これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

1）教育方法の基礎的理論と実践を理解している。

2）

これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（子どもの興味関心に基づく自発的活動の中で、主体的・対話的で深い学びを実現）を理解している。

3）学級・幼児・教員・教室・教材など保育を構成する基礎的な要件を理解している。

4）育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。

（2）教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。

1)話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。

2）基礎的な保育（学習指導）理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、保育展開、学習形態、評価基準等の視点を含めた保育指導案を作成することができる。

（3）情報機器を活用した効果的な保育や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。

1）子ども達の興味・関心を高め、感性を培い、思考力の基礎を培うために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・掲示することができる。

2）子ども達の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

教育方法論（幼稚園）

各回の内容

-
1. 教育の目的と幼児教育の基本 - 生きる力の育成（育みたい資質・能力）と幼児理解に基づいた評価 -

 2. 教師の役割における認識と理解

 3. 幼児教育における教材研究の意義と在り方・計画

 4. 幼児教育における保育方法の視点と展開の在り方 - 幼児の想像力や感性を養う環境設定・表現方法・計画-

 5. 幼児教育における保育方法の視点と展開の在り方 - 幼児の想像力や感性を養う環境設定・表現方法・立案-

 6. 幼児の想像力や感性を養う表現方法の工夫 - 話法、書き方・描き方、造形表現 -
教材研究・情報機器を活用した保育方法

 7. 幼児の想像力や感性を養う表現方法の工夫 - 身体表現 -
教材研究・情報機器を活用した保育方法

 8. 幼児の想像力や感性を養う表現方法の工夫 - 音楽表現 -
教材研究・情報機器を活用した保育方法

 9. 生きる力の基礎を培う保育の構想【保育実践】

 10. 生きる力の基礎を培う保育の構想【保育実践】

 11. 生きる力の基礎を培う保育の評価と改善 - 幼児理解と保育の視点を基盤とした教師の表現力に対する評価 - （省察）

 12. 小学校教育との接続に当たっての留意事項（小学校以降の生活や学習の基盤の育成）
幼児期の終わりまでに育みたい10の姿の理解

 13. 小学校教育との接続に当たっての留意事項（発達に即した教育方法）【小学校参観】

 14. 小学校教育との接続に当たっての留意事項（発達に即した教育方法）【小学校参観】

 15. 情報機器を活用した保育（教育）方法と総括

教育方法論（幼稚園）

準備学習（予習・復習等）

エクセル、ワード、エクセル、インターネット検索の操作に習熟しておく。

幼稚園・保育園で作成されるおたよりなどに関心を持ち見ておく。

幼稚園教育要領解説（幼稚園教育の基本、教職課程の編成）を熟読し幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・実習先での指導について、グループで、対話的に共有する場を設定する。
- ・グループで、保育を計画し、指導案を作成した上で、保育実践するための準備をする場を設定する。
- ・「移動幼稚園」で、保育実践をする場を設定する。
- ・保育実践を、グループで対話的に省察する場を設定する。

評価方法

教材研究の成果30%

指導計画の立案、保育の実践50%

保育実践の振り返りレポートと課題の明確化20%

教科書

幼稚園教育要領解説（平成29年告示）

参考文献

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示）

保育所保育指針（平成29年告示）

教育相談（幼稚園）

科目のねらい

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を培い、グループによる事例検討ワークを通して保育に必要なコミュニケーション力を養う。本科目は、保育者として求められる教育相談に関する専門的な知識・技術の修得を目指すための科目である。

担当教員	後藤 真
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	ことも保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

教育相談およびカウンセリングの理論と基礎的手法について理解を深め、子どもとその保護者を対象とした支援スキルを実践的に学修することを目的とする。

到達目標

教育相談の理論を正しく理解した上で、基本的な相談技法を用いることができる。また、子どもを取巻く状況を、個人・家庭・社会といった多角的な視点から把握し、事例を詳細に読み解くとともに、多様な人々とコミュニケーションをとり協働して学ぶことができる。

各回の内容

1. 導入：教育相談とカウンセリングマインド
2. 子どもを取り巻く環境と現状
3. 教育相談概論
4. 教育相談の技法
5. 支援者としての自己分析
6. 演習：関係性の構築
7. 構成的グループエンカウンター：「セルフケア」について
8. ライフサイクルにおける幼児期：「問題」に対する包括的理解と対応
9. 教育相談のプロセス
10. 演習：事例検討 「発達障害」
11. 演習：事例検討 「虐待」
12. 演習：事例検討 「家族と地域」
13. 連携と社会資源の有効活用
14. 構成的グループエンカウンター：「スーパービジョン」について
15. まとめ：教育相談の理論と技法

教育相談（幼稚園）

準備学習（予習・復習等）

- ・参考文献を熟読する。
- ・授業で配布される自主学習ワークシートに取り組み、資料等を調査する。
- ・関連するニュースに関心を持ち、授業内での自分の課題を明確にする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・各回において、小グループワークを中心としたアクティブラーニングを導入し、対話を通して熟考できる場面を設定する。
- ・ワーク課題には、臨床心理士である授業者の臨床実践事例を使用する。

評価方法

小レポート：効果的な教育相談を実践するために〔毎回授業後に提出〕（40%）、レポート課題：教育相談と自己分析（30%）、最終レポート課題：教育相談の理論と技法に関する考察（30%）

教科書

無し

参考文献

授業中に適宜資料を配布する

幼稚園教育実習

科目のねらい

保育者として求められる専門的知識・技術を修得する（DP1）、子どもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につける（DP2）、保育に必要なコミュニケーション力を身につける（DP3）、保育者として協働する必要性を理解する（DP4）、「子どもの最善の利益」を考え続ける態度を身につける（DP5）のための、総合的な科目（実習）である。

担当教員	長谷川・坂本・狩野・堺・奥田・山下
授業形態	実習
学期	2年前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	15日間
単位数	3

授業の概要

- ・幼稚園教育実習 は、1年次で行う幼稚園教育実習（観察・参加実習）の次の段階として位置づけられ、参加実習の他に、指導実習が加わる。
- ・子どもへの理解をさらに深めるとともに、幼稚園教諭の役割、幼児教育の目標、幼児の生活、保育内容への理解、家庭教育支援に繋がる保育者の援助などの学びを深めていく。

到達目標

- (1) 幼稚園教育実習 での学びや既習の授業の学びを活かしながら、実習に参加できる。
- (2) 幼稚園教育実習 の方法を踏まえ、クラスの子どもの実態に即した援助の在り方を学び、指導計画について実践的に理解できる。
- (3) 幼稚園教諭として必要な資質、能力、技術を習得できる。
- (4) 実践した保育について、反省と評価を受け、幼稚園教諭の役割理解と自己課題を明確にできる。

各回の内容

1. 子どもの名前を覚え、関わりの中でありのままの子どもの姿を知り、子ども理解に励む。
2. 幼稚園の1日の流れを、総合的に理解する。
3. 一人ひとりの子どもの発達に即した援助の在り方、方法を学ぶ。
4. 幼稚園教諭としての態度、技術を習得し、必要な資質や技能を養う。
5. 担当教諭の補佐として、環境構成、教材の準備や後片付け、クラス運営の方法、行事の準備、清掃、その他の業務を行う。
6. 個人と集団の中で子どもを理解する。
7. 子どもの実態に合った教材を準備し、ねらい・場面の構成・留意点を考え、生活の一部、または一日の指導案を作成し、実践する。
8. 個々の発達の姿を理解し、一人ひとりを大切に保育の実際を学ぶ。
9. 幼稚園、家庭、地域社会の連携のあり方を学び、子ども理解を深める。
10. 自己を客観的に見つめ、自己評価を行う。
11. 15日間、上記のような内容で、保育活動に主体的にかかわりながら実習を行う。なお、詳細は実習先によって異なる。

幼稚園教育実習

準備学習（予習・復習等）

- ・教科書や配布資料は、授業外においてもよく読む。
- ・幼稚園教育実習 の学びを活かし、 の課題をもとに、準備を行う。
- ・指導案作成や教材等の準備を計画的に進める。
- ・授業内容について、振り返り、再確認しておく。
- ・実習事前訪問（オリエンテーション）で指示があった場合は、その内容に合わせて準備する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・保育現場において実践的に学ぶ。

評価方法

実習先の評価70%（評価票を基に、個人面談を行う）、実習日誌の記録内容や実習時の様子等30%（記録内容やその他の実習の様子については、必要に応じて実習後に個別指導したり、全体に指導が必要な内容については、授業内で周知したりする。）

教科書

- 1・「幼稚園教育実習の手引き」、本学作成のもの
- 2・「幼稚園教育要領解説」、文部科学省、フレーベル館

参考文献

その都度紹介する。